

研究・調査報告書

報告書番号	担当
160	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Moderate prenatal alcohol exposure and cognitive status of children at age 10. 中等度の出生前アルコール暴露と 10 歳時認知能力状態	
執筆者	
Jenifer A. Willford, Sharon L. Leech, and Nancy L. Day	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcoholism: Clinical and Experimental Research 2006:1051-1059	
キーワード	
出生前アルコール暴露、知能、先天性、小児	
<p>要 旨</p> <p>(目的)</p> <p>出生前アルコール暴露と知性に及ぼす影響は胎児性アルコール症候群の小児で報告されている。しかし、軽度および中等度の出生前アルコール暴露と小児の一般知的能力の欠如に関する報告は少ない。中等度の出生前アルコール暴露と 10 歳時認知能力状態の関連を他の出生前、出生時因子、母親や小児の心理因子、環境特性を調整し、検討する。</p> <p>(方法)</p> <p>Maternal Health Practices and Child Development Project の一環として 636 組の母子を対象に前向き追跡研究を行った。妊娠期間中 3 ヶ月毎および出産時、8 ヶ月、18 ヶ月、3 歳、6 歳、10 歳時に成長評価、発達評価、認知能力、心理学的機能を調査した。10 歳時は認知能力を Stanford-Binet Intelligence Test の言語、視覚、数量的、短期記憶のそれぞれの得点及び合計点を用いて調査した。解析では母親の知能、両親の薬物使用、母親と子どもの心理特性、家庭環境を調整した。</p> <p>(結果)</p> <p>アフリカ系米国人では妊娠 3 ヶ月、6 ヶ月の出生前アルコール暴露と 10 歳時 Stanford-Binet Intelligence Test の集成値、言語、視覚、数量的部門に関連を認めた。母親の知能指数、家庭環境、子どもの抑鬱報告も子どもの 10 歳時知能と関連を示した。</p> <p>(結論)</p> <p>アフリカ系米国人では出生前アルコール暴露と 10 歳時認知能力が関連していたが、白人米国人では出生前アルコール暴露と Stanford-Binet scales は関連していなかった。</p>	